



全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、5月27日(木)に全国の小中学校で実施されました。昨年度は行われなかったため2年ぶりの実施です。この調査は、学力向上を目指して、指導内容や指導方法の改善、生活指導に役立てる目的で行われているものです。本校でも6年生が、国語、算数の2教科と、

69項目ある児童質問紙(生活習慣や学習環境に関するアンケート)による調査を受けました。その全国



学力・学習状況調査の結果が8月末に届きました。調査を実施した6年生には、それぞれの結果個票を返却したところです。

調査から測定できるのは、子どもの学力の一部であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、結果をもとに学校と家庭が協力して、教育活動や児童の学習状況の改善につなぐことが大切です。そこで、今回の結果から見えてきた本校の特徴についてまとめてみました。

1 学力調査からみられる四郷小学校の特徴(強みと弱み)

本年度は国語、算数ともに全国平均をわずかながら下回る結果となりました(全国平均正答率と比べて1.1～2.8%)。また、国語、算数ともに、無回答率が全国平均よりも高い傾向もみられました。

※ 調査の問題・解答は文部科学省ホームページからご覧になれます。

※ ○…強み(正答率が高いもの) ●…弱み(正答率が低いもの)

【国語】

○「言語の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の内容については、全国平均正答率を上回っていました。

○「目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかみる問題」(設問1三:正答率85.3%)はよくできていました。また、「漢字を文章の中で正しく書く問題」(設問3三エ:正答率83.8%)など、漢字を使って書き直す問題はよくできていました。

●「書くこと」「読むこと」の内容では全国平均正答率を下回っていました。

●問題形式(選択式・短答式・記述式)の「記述式」で無回答率が高く(8.8%～14.7%)、全国平均の2倍ほどの割合でした。

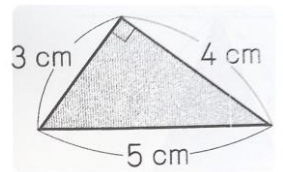
●「複数の文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題」(設問2三:正答率23.5%)や「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題」(設問2四:正答率29.4%)に課題がありました。

【算数】

○「変化と関係」「データの活用」の領域は、全国平均正答率とほぼ同じでした。

○「速さと道のりをもとに時間を求める式を表す問題」(設問1(5):正答率91.2%)や「棒グラフから数量を読み取る問題」(設問3(1):正答率92.6%)「棒グラフから関係を読み取る問題」(設問3(2):正答率92.6%)はよくできていました。

- 「数と計算」「図形」「測定」の三領域で、全国平均正答率を下回っていました。
- 「三角形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる問題（右図参照）」（設問②(1)：正答率39.7%）に課題がありました。



- 「商が1より小さくなる等分除（8人に4リットルのジュースを等しく分ける）の場面で式と答えを求める問題」（設問④(2)：正答率44.1%）に課題がありました。
- 「速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解しているかどうかをみる問題」（設問①(3)：正答率48.5%）に課題がありました。

2 児童質問紙からみられる特徴（学習・生活の状況に関して）

何よりもよいことは「朝食を毎日食べている」子の割合が高く基本的生活習慣が整っているという点です。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」という子の割合もかなり高いことがわかりました。

学習では「話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と答えている子や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と感じている子が多いです。

一方、「コンピュータなどICT機器を授業や勉強のために使用する頻度」や「授業で自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している」「友達と協力するのが楽しい」と感じている子が全国平均に比べ少ないという実態がみられます。また、「平日、一日当たりどれくらいの時間テレビゲーム（PC、スマホゲームを含む）をしますか」で2時間以上と答えた子が約半数（そのうち4時間以上と答えた子13%）いることも明らかになりました。

3 学校質問紙からみた学校の特徴（県や全国との比較）

本校では、各教科の授業の中で「言語活動を大切にした授業が行われている」「一人一人のよい点や可能性を見つけて評価している」ことが県や全国に比べよく行われている一方で、プロジェクター・電子黒板などICT機器を活用した授業が行われている頻度が全国に比べやや低いことがわかりました。

また、家庭学習について校内で共通理解を図ったり、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたりしていることが県や全国に比べ、よく行われていることがわかりました。

授業改善に取り組みます。

学校では全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、全学年で学力向上のための授業改善に取り組んでいます。特に、正答率が低く課題のある学習内容については、つますきを克服するために、授業や朝の学習等で系統的・継続的な指導を行います。タブレット等ICTの活用も進めます。また、授業の中で、自分の考えや方法・筋道などについて、文章で表現する機会を多くとり、目的や意図に応じて適切に書く指導を充実させます。算数で公式やきまり、計算の仕方を学習するとき、そのわけや意味まで理解できるよう指導を工夫します。

生活習慣の定着・家庭学習へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご家庭での家庭学習等のご支援ありがとうございます。全校で家庭学習について統一した取り組みを続けていることもあり、漢字や計算などの基礎的な学力は定着しつつあります。しかし、平日のゲームやスマホに費やす時間の長さからも、自主学習（プラス1）や読書などの自主的な家庭学習に取り組む時間や睡眠時間が短くなっていることがうかがわれます。今後、子どもたちの主体的な学びを育むため、引き続き、生活習慣の定着・家庭学習（宿題＋自主学習）へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。